

# 令和5年度 第1回教育課程編成委員会 要旨

日時：令和5年7月13日（木）10：00～12：00  
場所：国際園芸アカデミー 研修室BC（オンライン）

## 【あいさつ（今西学長）】

本校は平成30年に、文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けており、教育課程編成委員会もその認定を受けたときの条件の一つになっている。本委員会は、企業や業界団体との連携を図りながら、実践的な教育の保証や向上を目指すために設置されている。委員の皆様から忌憚のないご意見を頂き、それを反映しながら今後の教育課程の編成に繋げていきたい。

また、4月から国土交通省の審議官であった古澤さんに顧問として就任いただいております、今日は同席いただいております。

## 【あいさつ（古澤顧問）】

今年度4月から顧問に着任した。今西学長の補佐をする立場で、週一回だが、お手伝いをさせて頂く。

## 【委員会の成立について（小野寺副学長）】

委員9名中7名の出席をいただいております、過半数の出席であるため、教育課程編成委員会規程第8条第1項の規定により、本日の教育課程編成委員会が成立。

## 【検討事項1：令和4年度カリキュラムの実施状況について】

（資料1～2により説明）

各委員：意見なし

（資料3により説明）

### ●山田委員

#### ○全体について

・各分野での説明について、全体的に学生は授業を漫然と受けてしまうので、「この授業がどのような目的で行われているか」を最初に理解させることがとても重要である。シラバスで到達目標が設定されていると思うが、それを学生が理解した上で受講するの可否かで、おそらく学習効果は変わってくると思う。

#### ○造園緑化分野の授業（測量実習・製図実習）について

・令和3年度に、「測量・製図実習」として行われた時の自由記述では「実際の作業が線を書くだけのものだった」という記載があったが、何のために授業が行われているか理解されていないのかなと想像される。それが、令和4年度から「測量実習」「製図実習」に分割されたことで、授業の目的についてしっかり理解させることができるようになったと考えてよいか。

### ●新井准教授

・以前は、時間数が短く、この授業内容が将来の実際の業務の中でどのように繋がっていくのか理解してもらうには時間が足りなかったが、その点もしっかり説明できるように改善を図っている。

### ●小関委員

#### ○マーケティング分野の授業（商品動向リサーチⅡ・商品開発演習）について

・私たち生産者としても、商品開発は常に行っており、ニーズに対してどう応えていくか、どのよう

な提案を行っていくかは大切であるため、良い授業である。それぞれのコースに共通してとても重要なことであるため、商品開発演習も必修で良いのではないか。

・Google フォトを使ってデータベースを共有するという話があったが、コツコツと積み上げる作業も当然必要ではあるが、IT などの技術は活用しながら、省けることや時間短縮可能につながることは進めていただき、内容の濃いものにしていただきたい。

#### ●井上准教授

・「商品開発演習」の必修化については、同感である。全ての学生にもう少し興味を持って貰いたい。現在、生産コースだけでなく、装飾コース、造園コースから参加している学生は、はっきりとした目的意識を持って参加している。今後は、もう少し幅広く声掛けをしていきたい。

#### ●小関委員

##### ○マネージメント分野の授業（起業・経営シミュレーション）について

・従業員として働くのであっても、「経営」の事を理解していることが大切である。  
・最近、「ポスト資本主義」という考え方が言われるようになってきたが、今までよりもソーシャルに寄った形の資本主義について、頭の片隅に置いておく必要があるのではないか。園芸という職業は、ソーシャルに寄っており、相性の良い分野である。先進国に限ってはモノが充分に行き渡った状況の中で、従来の経営であったり、「とにかく儲けよう」という考え方で進めて良いのかと疑問を感じている。

これから将来を担う若い学生たちに対して、豊かな人生を送るための考え方が重要ではないかと提言させていただく。

#### ●佐藤准教授

・このことについて、学生自身は敏感に感じている。学生自身が自分の仕事が社会にどのように役立っているか、貢献しているかについてとても敏感に感じている。彼らにとっては、それが職業選択であったり、自分のキャリアを構成する大きな要素になっている。

金儲け資本主義の考え方とどのようにバランスを取っていくかについて、私の授業で学ぶ知識と、学生自身が今の時代に生きていて感じていることを、うまくミックスして欲しい。また、これからの学生にはそのような力が求められるのではないか。

岐阜大学のカリキュラムの中には、起業家教育や会社における社会的貢献について学ぶ科目はあるのかお尋ねしたい。

#### ●山田委員

・岐阜大学もこうした分野の必要性について、最近認識されるようになってきた。実務者教育として企業の方に授業を分担していただくことも意識するようになってきたが、完全に出来上がっておらず、今後の検討課題になっている。また、インターンシップも必修化され、カリキュラムもそうした分野を徐々に意識したものに変わってきている。

大学の教員はこのような分野が苦手なところもあるので、実際の企業とのコラボレーションが必要になってくると感じている。

#### ●小笠原委員

##### ○授業全般について

・この春から NHK 文化センターで講義を受け持っているが、講座の名前がワクワクするものが多い。大学は文化センターと違うことは承知の上だが、科目の名前にあまりワクワク感が少ないものが多い。

い。サブタイトルなり付けることで、学生が授業に対する興味を抱き、こんな面白いことがあるというワクワク感を持つような入り口になると良いのではないかと。

#### ●稲垣委員

##### ○造園緑化分野について

・測量や製図に対する授業時間を十分に確保した点について、現場での測量は造園計画を行う上で非常に大切である。「習うより慣れろ」という言葉があるが、倍増された時間で実践に近い形の授業を行っているのは、良いことであり、学生の技術習得にもつながっているように思う。

反面、それにより時間数が減った授業などはなかったか。

#### ●今西学長

・二年間の中で、かなりのボリューム感を学生に教えているわけだが、この二年間の限られた時間のなかで、カリキュラムをバランスよく配置して行くことも十分に検討して行く事柄である。毎年カリキュラム編成には苦労して取り組んでいる。

時間数については、「卒業研究制・卒業制作」がかなりの大きなボリュームを占めており、そこを大きく見直す必要があると考えている。

また、幅広く学んでいくためには、できる限り新たな選択科目を作り、自由度を持って学生に選んでもらえるような取り組みを行っている。

#### 【検討事項2：ぎふワールド・ローズガーデンの授業活用について】

(資料4により、大橋委員より説明)

(資料5により、臼田委員より説明)

#### ●今西学長

・ハード整備がなされても、学生が移動する必要がある、移動時間はある意味無駄になってしまう。授業を組み合わせたとしても、1日4コマしか消化できない。今後進める令和6年度のカリキュラム編成は相当な労力が必要であり、本当に授業ができるのかという所に突き当たる可能性もあるが、十分に検討していきたい。

・当該施設は国際園芸アカデミーの占有施設では無い。国際園芸アカデミーが使用しない時に公園施設として公園利用者の方に使っていただくのが本質的なものだと思っている。私共も含めた農政関係部局と都市公園を管理する部局、公園を管理している指定管理者が、運用開始までに十分な協議をして行く必要がある。

#### ●山田委員

・花トピアにおけるインターネット環境も整備されるのか。移動負担や無駄な時間を減らすために、花トピアを利用する日は一日そこにおいて、Wi-Fiを介して本キャンパスとつながるハイブリッド授業なども可能かと思う。

#### ●今西学長

・花トピアもWi-Fi環境が整備される。あとはデータ容量をどの程度にするか契約の部分を決める必要がある。ご指摘いただいたような工夫をしていかないと、移動などで無駄な時間ができてしまう。秋の第2回委員会の際に報告できるよう準備していく。

#### 【意見交換：求める人材について】

(資料7により、臼田委員より説明)

(欠席された委員からいただいているご意見を事務局より紹介)

### ●宇野委員

- ・作業にだけ目を向けるのではなくて、経営まで意識が向く人材を求めている。単価や原価を意識する癖が必要。簿記も積極的に学び、販売にも意識を持つなど経営者としての感覚を持てるような人材を育成していただきたい。
- ・最近の若い方は安定を求める人が多い傾向にあり、チャレンジ精神を持って欲しい。また、簡単に挫折してしまう方が多い。以前に比べて若者の集中力もなくなっていることも感じる。
- ・最近の取り組みとしては、障害者雇用にも取り組んでいきたいと考えている。
- ・アカデミーに対しては、担い手や農家を育成することに対してお手伝いをさせていただきたい。

### ●内山委員

- ・アカデミーでは、装飾においても経験豊富で技術がある指導者の下、教育が行われている。過去の発表会を見ても、学生の時点で高い技術を備え、考えも構築していることに感心している。
- ・資格取得は楽しいものではないが、それに向けた練習も将来何かの役に立つ。学生が実践的な考えも勉強できているところは評価をしている。

(出席委員からのご意見)

### ●小関委員

- ・この業界に限らず、IT・ICTの分野は日々進歩している。AIやチャットGPTも普及している中で、情報を使うだけでなく、リテラシーの部分の教育が必要と感じる。
- 生産現場に関しては、入出力が伴ったIoTを活用してハウスの自動化に少しずつ取り組んでいる。私は就農前、工場管理において「ファクトリー・オートメーション」という分野で仕事をしており知識はあったので、就農してから生産現場での導入を試みたが、コスパが全く合わず諦めた。しかし、昨今は技術革新により安価で、コスパが良い機材がどんどん出回っている。ハウス温室のコントロールなどは、今後効率化が図られるのではないかと。学生は頭が柔らかく、そういった情報を取ってくる事がスムーズにできる学生が多くいると思われる。
- とは言え、先進的なことが求められている中でも、実際は、コツコツ行う地道な作業も当然大切である。理想が高く、頭でっかちになってしまうのではなく、そうした作業も重要であることも併せて教えていただけると、バランスのとれた学生に育つと思う。

### ●稲垣委員

- ・土木建築の世界では、完成時が最高の状態であるが、造園の世界では出来上がった時がスタートであり、メンテナンスによって一層良くなる。植物や生き物を扱うという上では、そういった思いを学生さんに伝えて頂けると良いと思う。
- ・資料にあるように、コミュニケーション力があり、笑顔で元気のある人、また、体力も非常に必要となるので、そういった基本的な部分を備えている方が良い。
- ・資格や免許は、造園に関しては非常に多い。近年は法律も厳しくなっており、入社してからも研修を受講するケースもあるが、学生のうちから事前に勉強していかれると良い。
- ・今後、ぎふワールド・ローズガーデンでの授業も増えるということだが、第三者の目に触れて非常に良いと思う。安全面については、一般の方に注意しながらの作業や授業になると思うが、実際の現場でもこのような状況は常にあるため、そうしたことを意識する良い機会になると思う。
- ・可児市建設業連合会や造園協同組合が主催となり、ぎふロードプレーヤーとしてぎふWRGの中の樹木管理を行っているが、アカデミーの学生にも声をかけさせていただき、これまでに3回一緒に行っている。今後、より一層、ぎふワールド・ローズガーデンと繋がりが深くなり、実践的な良い授業になっていくと期待している。

### ●小笠原委員

・日本の人口減少が進み、年間 65 万人ぐらいつつ減っており、2100 年には現在の約 2/3 の 8300 万人ぐらいになると言われている。日本経済の世界におけるシェアが減ると、量が低下するので、それを補うために、やはり質を高めるしかないと言われている。良質の価値を作る方策を今後探っていく必要があるのではないか。

・小売業の世界を見てみると、AI が非常に発達してきた。例えば、セルフレジや店舗の無人化ということが大変進んでいるし、商品選択のアドバイスも AI が行うような時代である。新しいベクトルが急速に発達しているが、そうした新しいベクトルが発達すると、必ず二極化という現象が出てくる。それは、「人間にしかできない店」であり、例えば、良質な価値を持つ商品の創造や業態などが、新しい形として出てくるのではないか。日本は歴史的に見ても花の文化の世界の中では大変質の高いものを育ててきており、今後重要な部分かと思う。

・その上で、求められる人材については、私共の会社として、まず前提として社員が入社したらできるだけ長期間勤務できるような会社でありたいと願っている。

採用時も学生の学部は全く問わず、文系の方が半分ぐらい入社している。採用時の基準としては、中・長期的な視点で採用しており、技術や知識より情緒が豊かであるとか、感受性が高いとか、「美しい花を美しいと思う心」をきちっと理解しているかを重視して採用している。また、営業や接客の中で販売に携わってもらいが、その商品の魅力を過不足なく説明できる言葉、力をどれだけ備えているかを非常に大切にしている。

・私もアカデミーで園芸文化研修の講座を受け持っているが、学生にやはり若い時に世界に出て世界を見て、感受性や情緒というものをいかに自分の心の中に刻み込むかが大切であると最後に申し上げている。

・二十歳頃に覚えた記憶は、歳を重ねても忘れにくいものである。英単語を覚えるように、植物の分類や名前、植物の基礎をしっかりと叩き込んでいくと将来役に立つのではないか。

そして、アカデミーにいる 2 年間に、生涯の師となる先生や、生涯の友人に出会えるような校風を大事にしていきたい。

### ●山田委員

・「業界が求める人材」は、重要な要素だと思っている。岐阜大学でもこうしたアンケートをとるように努めている。

・岐阜大学全体で、卒業者アンケート調査を行うこととなった。まずは卒業 3 年目を対象に、「実際に働き始めて、どんな能力が必要だと感じるか?」「大学で学んだ中で、何が役に立っているか?」「何が不足しているか?」、こうした点を拾い上げ、実際にカリキュラムに反映する作業を行っている。

・最近の学生の就職活動はかなり多様化している。1 社目で内定を決める学生もいれば、40 社受けているような学生もいる。就職活動に対する姿勢やこだわりは、学生によって二極化している。

また、就職活動している学生と話をしていると面接を繰り返すうちに、自己肯定感がかなり低下したり、メンタル的に強くストレスを感じる学生が多く、大学としては就職活動をして社会に出ていく学生に対して、メンタル的なサポートも最近は特に必要であると感じている。

### ●大橋委員

・令和 4 年、花と緑の振興センターを整備した。こちらの機能として、一つは担い手育成の拠点施設としての機能。もう一つは花き産業振興の拠点としての機能を持つ。

・担い手育成に関しては、経営感覚に優れた経営者を育成するということで、経営のノウハウや消費者の花の購買意欲を喚起する商品作りなども学んでいただいている。今年度、新たに技術研修も行い、特に若手の生産者の方を対象とした内容となっている。

・花き産業振興の拠点としては、令和 3 年に整備した花と緑の振興コンソーシアムの事務局を担っ

ている。花業界は生産額も年々落ち、厳しい現状ではあるが、新たな取り組みで新商品や新サービスを開発していく動きも出てきており、業界を盛り上げていきたいと考えている。

#### **【講評（古澤顧問）】**

3ヶ月経ったが、アカデミーでは大変素晴らしい教育が行われていると感じている。学生の姿を見ていると、非常に明るく楽しそうに授業を受けている。またOBになったアカデミー卒業生が在校生や先生方を度々訪ねて来てくれているのも素晴らしいことである。

一方で、これだけのものがありながら、素晴らしい教育環境があることが県内にも、県外にも知られていないと感じる。教育内容もどんどん改善させていくわけだが、それにもまして広報は大変大事と感じている。

今日、話題になった業界の方々のご意見を加えながら、さらには卒業生が業界の中で活躍しているような、好循環を作り出せるようにするには、どうすべきかを今後考えていきたい。

#### **【閉会（小野寺副学長）】**

委員の皆様大変貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見は今後のカリキュラムや来年度からのぎふワールド・ローズガーデンを利用した授業に生かして参りたい。

秋には第2回委員会の開催を予定しており、その際は、具体的なカリキュラム等について意見をいただく予定である。

以上で、令和5年度第一回教育課程編成委員会を閉会する。